まとめ

テーマA

「カリキュラム・マネジメント」

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く**知識・技能**の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「社会に開かれた教育課程」の実現
各学校における**「カリキュラム・マネジメント」**の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

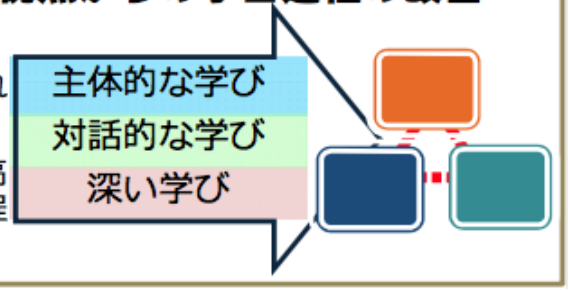
学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善



中央教育審議会　幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）　平成28年12月21日より作成

○　カリキュラム・マネジメント

三つの側面

①　各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。

②　教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立すること。

③　教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

中央教育審議会　幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）　平成28年12月21日より作成

三笠市教育研究所

■「生徒や学校、地域の実態を適切に把握し」
　地域のよさ、特色に目を向ける
　→　小中一貫教育、CS
　　国際化、地域科の蓄積

■今やっていることを整理する（3つの側面）
→　確認する　見直す　価値付ける　改善する

三笠市教育研究所

■地域科（ジオパークＥＳＤ）を中核とした取組

■地域科カレンダー（シラバス）

・可視化で構成員がイメージを共有
・媒体を通して協働、組織力強化
・子供にもイメージ化させる

キーワード：情報共有　継続

- 教員は風の人、地域住民は土の人
  → システムづくり → コミュニティー・スクール

- 単純化、可視化、焦点化、重点化

- わかりやすさ

胆振教育研究所

■調査研究

・管内を俯瞰できる研究所のよさを生かした取組

・数値的なデータによる客観的な分析

胆振教育研究所

■調査結果を踏まえた取組
・人的資源の活用は地域の要望を把握する
・課題の共有、時間の確保

■目的を見失わない取組
教育活動の質の向上、教育効果の最大化

研究所・センターの役割

●翻訳、通訳

・自分が理解し、自分の言葉で表現する

・趣旨、方法、方向を明確にする

・学習指導要領総則（原文）を踏まえる

●全体と個（多様化）に応じた支援

・研究所は全体を俯瞰できる立ち位置

・学校の教育活動は「特殊解」

●組織改革（時代に合わせた組織）